

東地区公民館主催事業「公民館サイエンスカフェ」をご紹介させていただきます。

この事業は、回塊世代対象事業として平成22年度にスタートして今年度で9回目を迎えました。

ほんぽーと（中央図書館）を会場に4回の連続講座で実施しています。基本的なコンセプトは次のとおりです。

回塊世代の対象者が培われた経験、能力に働きかけその知的欲求を満たす内容の講座を実施することで公民館との距離が遠かった人への参加を促し、身近な公民館へとつなげる機会としています。

平成27年度からは前年度の受講者から募った企画委員で企画会議を重ね、アンケートを参考にしながらテーマを絞り、講師候補者を選定しました。

今年度は日頃から注目されている内容に絞り込んで、次のテーマを設定しました。

1. 科学とどう向き合うか
〜元研究者が研究から離れて考えたこと〜
2. 宇宙の成り立ちの謎について
3. ヒトの免疫について
〜アレルギー反応とは？〜
4. 佐渡の森林のドラマ

参加者の合計は208人で、中には60人を超える回もあり、参加者の関心が高いことをうかがい知ることができました。また高齢者の多量の中で、中学生が1人参加されていたことは、非常に喜ばしいことでした。



そもそも「サイエンスカフェ」とは1990年代後半、イギリスとフランスで行われたことが起源のようです。

「カフェのようなフレンドリーな場」で「サイエンスについて語り合う」ことを指しています。大学主催や一般の喫茶店、書店を会場に日本全国で開催されています。

そのうちのひとつに「サイエンスカフェにいがた」があります。事務局幹事が本間善夫さんです。「公民館サイエンスカフェ」ではその本間さんからファシリテーターを務めていただいています。

次に「公民館サイエンスカフェ」の始まりについてご説明します。当時の東地区公民館職員が何か

新しいものにチャレンジしたい。対象も公民館に参加していなかった回塊世代をターゲットにしたいという思いをいだいていました。そして生涯学習センター主催の市民

大学講座に出席した際、新潟大学教授の井山弘幸先生の「科学」をテーマにした講義を聴き、「これだ！」と思い、直接研究室を訪ねたところ本間善夫さんを紹介されました。本間さんご本人は、新潟

駅隣接の大型書店で「サイエンスカフェ」を開催されていて、これをさらに広めていきたいという希望があり、お互いの思いが一致して「公民館サイエンスカフェ」として事業をスタートすることができたということです。

実際の参加者は50歳代以上が大半を占めています。

回塊世代はもちろん、科学に関心のある中学生くらいから大人まで幅広い層を対象にしています。

講師は、大学の教授や准教授の先生方が多いので、非常に専門性が高い内容となっていますが、毎回アンケートからは、9割以上が満足しているという結果が出ています。

これは参加者の知的欲求に応え

たものになっているので、新たな知識を得た時の喜びや改めて学ぶことの大切さを強く感じられたからだと思います。

さらに「新しい情報や知識が得られて良かった。」「これからの生活に役立つ内容だった。」「日頃知りたいと思っていた知識を紹介してもらえた。」「公民館講座の中では秀逸である。とても良い。来年度も期待したい。」など、次へのステップにつながる励ましの声をたくさんいただきました。

最後に、お忙しい中「公民館サイエンスカフェ」にご登壇いただきました講師の先生方へ心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

(野崎)



「～科学を身近に 知るを楽しむ～公民館サイエンスカフェ」

[目的] ・ 科学技術の進歩が身近な生活に結びついていることを認識する。

・ 回塊世代に公民館の存在を知ってもらい、公民館活動への参加のきっかけづくりとする。

・ 民間団体「サイエンスカフェにいがた」の協力を得て開催する。

[手法] ・ お茶を飲みながら、ファシリテーターが参加者と研究者をつなぐカフェ形式の講演会で実施。希望者は交流会にも参加。